

旭市の魅力を子どもたちへ

市長 米本弥一郎



今年の「二十歳の集い」に出席したときのことです。来賓の1人が約500人の20歳の皆さんに2つの質問をしました。「現在、就職や学業で旭を離れている人は？」との質問には約250人が、「将来的に旭に帰ってきたいと考えている人は？」との質問には約120人が、手を挙げました。

旭市の人口減少の要因の一つは、高校卒業と同時に故郷を離れてしまうことです。「また戻ってきたい」と思えるまちづくりの重要性を再認識した瞬間でした。

これまで、私は市民との対話集会などで、さまざまな分野・世代の方々からお話を伺ってきましたが、皆さん共通しているのは、旭市の特長に、食の豊かさと充実した医療体制をあげていることです。

新鮮でおいしい農産物は、全国屈指

の農業産出額を誇り、また、飯岡漁港は、豊富な海の幸が水揚げされることで知られています。さらに、旭中央病院は、24時間365日市民をはじめ医療圏90万人の命と健康を守る東総地域の基幹病院です。

広報あさひ本号では「このまちでずっと暮らそう」と題し、旭市への移住・定住について特集しています。私は学生時代の1年間を除いて、ずっと旭市で暮らしています。私にとって旭市は、何をするにも「ちょうどいいまち」です。

新鮮で豊富な食材と、安心できる医療体制、温暖な気候に、歴史や文化などの、さまざまな資源と、それらが織りなす人々のあたたかさは、旭市の誇りです。

これらの資源を築いた先人に感謝し、旭市の魅力を子どもたちに伝え、全国へ発信していきましょう。